

平成16年度全国自作視聴覚教材コンクール

小学校部門 種別 CD-ROM (HTML 形式)

社会科・総合的な学習・国語科第3・4学年地域教材

くらしのうつりかわり

～1枚の写真とムービーから昔が見える～

本Webコンテンツを見るためには、FLA SHPLAYERとQuicktimeが必要です。

Get macromedia FLASH PLAYER Get QuickTime Free Download

くらしのうつりかわり

～1枚の写真とムービーから昔が見える～

- むかしの話
- 町のうつりかわり
- 学校のうつりかわり
- くらしの風景
- ムービーで見る昔
- 道具のうつりかわり
- 仙台昔マップ
- 目次からさがす



©仙台市歴史民俗資料館

©仙台市戦災復興記念館

©仙台市歴史民俗資料館

Copyright© 2004 nonkazu tomita. All rights reserved.

<http://www2.sendai-c.ed.jp/~higasen/kurasi/index.html>

仙台市立東仙台小学校
富田 則和

制作の意図

1 制作に至る経緯

15年度、小学校第3学年において、「東仙台の昔を発見しよう」と「昔の話を発表しよう」を題材に総合的な学習に取り組んだ。題材を決める当たって、児童から出てきた取り組む内容として、地域の昔を調べたいという声が上がった。しかし、児童にとって昔というものが具体的な姿としてとらえにくいという問題点があった。そこで、事前に仙台市歴史民俗資料館と仙台市戦災復興記念館から、昔の写真を借り、児童がコンピュータで自由に閲覧できるようにした。昔の写真を見て気付いたことをまとめることにより、児童は昔の人々の暮らしに関心をもつようになった。改めて百の言葉より、1枚の写真の学習効果が大きいことを思い知らされた。その後、実際に仙台市歴史民俗資料館と仙台市戦災復興記念館へ取材に行き、更に学習内容を深めることができた。

Webコンテンツの教材は、今まで「わたしたちの仙台市」「わたしたちの宮城県」「梅田川のれきし」などを制作し、仙台市内の小中学校で活用されている。今回の教材は、ずっと前から作りたいという気持ちがあり、教材の構想をもっていたが、著作権の関係で資料が集まるかどうか不安があった。実際、15年の5月頃から資料を収集し始めたが、16年1月になっても、こちらが意図する資料が完全に集まらなかった。そのため、仙台市の1月、宮城県の2月の自作視聴覚教材コンクールでは、自分としては不本意な状態で出品することになった。しかし、コンクールをきっかけとして、仙台メディアテークから「市民の中の映像記録」の提供を受け、新たに動画を加えることができ、仙台昔マップの追加と合わせて、マルチメディア教材としての形が整い、完成させることができた。

今回はその他にも、仙台市歴史民俗資料館や仙台市戦災復興記念館、仙台市広報課、仙台市博物館、仙台市宮城野区役所、更には、制作に賛同した先生方など多数の協力を得られたことに感謝している。

2 1枚の写真とムービーから見えてくる

本教材の利用は、写真と動画をありのままに伝え、児童がそれから自分の意志で学び取ることを基本としている。文字による説明も加えてはいるが、あくまで1枚の写真と動画から、児童が主体的に学ぶ姿勢を求めるものとして制作した。実際、自分自身が資料を収集する中で、写真、動画の中から、様々なものが見え、昔の人々の息吹を感じることができた。同じように児童にも、自分の感性で読み取って欲しいという思いから、1枚の写真をページの中で可能な限り大きく掲載した。

しかし、昔の写真といっても、児童の住んでいる地域とかけ離れていては、時間の流れの隔たりもあり、児童に身近なものとして実感させるのは難しいと思った。そこで、現在の写真も入れることで、現在と過去を対比させる構成を考えた。更に地図上から、写真の場所を分からせ、身近な地域であることを実感させようとした。それが、仙台昔マップである。

本教材の一番のねらいは、児童が実際に自分で地域の昔を調べ、祖父母や地域の人々とのコミュニケーションを深めようとする、人との関わりの大切さに気付かせることである。そして、単純に昔は不便で、現在は、便利だという固定観念を捨てさせ、時代、時代の人々の営みが現在につながり、児童に前向きに未来を考えさせたいと思い本教材を制作した。

使用方法

1 対象学年

小学校第3学年以上

2 教科

社会科・総合的な学習・国語科

3 動作環境 WindowsXP Macintosh 対応

(1) 画面サイズ

画面サイズは、800×600なので、15インチ液晶モニターの場合、全面表示でスクロールなしで見ることができる。

(2) 推奨ブラウザ

インターネットエクスプローラー5.01以上かネットスケープナビゲーター4.7以上

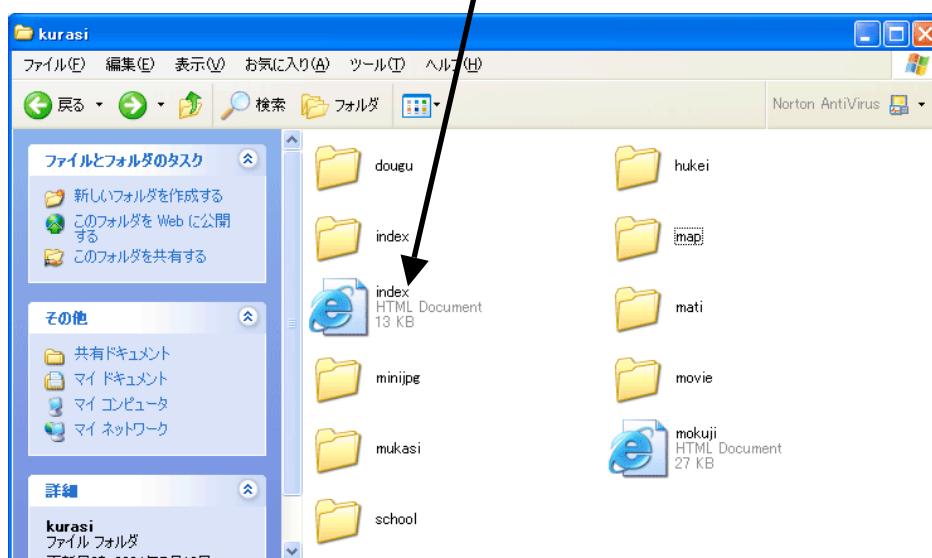
(3) プラグイン

一部フラッシュによるアニメーションがあるので、フラッシュプレーヤー5以上（トップページにリンクが貼ってある）か、エクスプローラー5.01以上ならば再生できる。

4 操作の仕方

(1) ファイルの開き方

マイコンピュータのCDを開く index をクリックする



(2) ページの進め方

基本的には、ボタンをクリックすることで、目的のページへ進むことができる。各項目のトップページでは、写真を見て、それをクリックすることでページを移動できるようにしてある。

(3) ムービーの操作

ビデオの再生、停止、巻き戻しボタンと同じように操作ができる。

ストリーミング形式なので、ダウンロードが途中で、再生できる。



5 ページの構成（185ページ）

（1）昔の話

スライドショーによる昔の話の導入

（2）町のうつりかわり（79ページ）

明治時代から大きな節目ごとに、仙台市の町の移り変わりを調べることができる。

①鉄道のできたころ（明治時代）

明治時代の写真は少なく、画質も相当劣化している。

②市電のできたころ（大正時代）

大正時代は、人々の生活にもゆとりを感じさせられるものが多かった。

③空しゅうのあったころ（昭和22年頃まで）

市民の生活との関わりで題材を選び、「ちいちゃんのかげおくり」などの教材としても使用できる構成にしてある。

④新しい町づくり（戦後から昭和44年頃まで）

戦後の復興と町並みの移り変わりを中心に選定した。

⑤宮城県沖地震

1978年の宮城県沖地震の記録。

⑥今の仙台

現在の仙台を知ることによって、町の移り変わりを知ることができる。

（3）学校のうつりかわり（14ページ）

学校の移り変わりを年代ごとに紹介している。戦争中の職業学校のことについても触れてある。

（4）くらしの風景（11ページ）

「グラフ仙台」（仙台市広報課）より、昭和30年代の人々の暮らしが分かる写真。人々の生活の様子が生き生きとしている。

（5）ムービーで見る昔（21ページ）

昭和10～15年にかけての仙台市民の16mmフィルムをムービーに変換した。昔の映像で、音声がないためBGMを作成した。1973年の遊園地は、知人より8mmフィルムの提供を受けた。20年より新しいカラー映像は、自分で撮影していたものである。

（6）道具のうつりかわり（7ページ）

新しい社会科の指導要領では、道具を通して調べる活動を重視している。道具については、児童に身近なものを選んだ。

（7）仙台昔マップ（51ページ）

①仙台昔マップ1

地図から昔の写真にでてきた場所を探す。地図上のボタンをクリックすることによりロールオーバーで、写真を見ることができる。全ページで今の写真と対比できる。

②仙台昔マップ2

中心部に残る古い建物や遺跡、歴史民俗資料館などを紹介している。

③仙台昔マップ3

郊外にある古い建物や遺跡、市電保存館などを紹介している。

（8）目次から探す

ページ数が多いため、目的のページをすぐ探せるようにサイトマップを作成。